

病理診断科

【病理診断科の特性・特徴】

当院病理診断科の業務は各科から依頼される組織診、細胞診、病理解剖の大きく 3 つを担っており、現在常勤病理医 5 名（うち病理専門医 3 名）、非常勤病理医一名（広大口腔病理）、臨床検査技師 12 名でこれにあたっています。2023 年の各業務件数は、組織診約 13,000 件、細胞診約 11,000 件、病理解剖 17 件となっています。

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として病理診断に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 各科との連携に際して、適切なコミュニケーション技能を身につける。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より本質的な知識を身につけ、疑問を自ら構築すること。
- 4) 担当する患者／症例の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) 病理診断科で用いられる主な検索方法について、概要、有用性、限界、危険性を理解し、その結果を解釈できる。
- 2) カルテや画像などから必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 病理学的な検索および鑑別診断の原則に基づいて、病理診断にあたることができる。
- 4) 臨床各科と必要事項を議論することができる。
- 5) 収集した情報を基に、病理診断書を作成できる。
- 6) 担当した症例の一連の流れを理解することができる。
- 7) 症例を要約する習慣を身につけ、カンファレンスで概略を発表することができる。
- 8) 診断に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療

広島市立広島市民病院

ガイドライン等の電子化情報を含む)を、適切に検索・収集することができる。

- 9) 医療チームの構成や構成員(医師、臨床検査技師)の役割分担と連携・責任体制について説明できる。

【注意事項】

- 1) 医師以外の医療スタッフ、病院関係者と接する際には礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。また患者さんに直接接する機会は非常に少ないが、病理検体は患者さんのものであることを忘れず、感謝の気持ちを忘れないこと。
- 2) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意すること。
- 3) 毎朝八時半実習開始とする。欠席、遅刻の場合は届け出ること。

【実習の内容】

- 1) 初日にオリエンテーションを行う。
- 2) 初日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中は指導医と行動を共にすること。指導医の担当する症例と一緒に検索し、病理診断書作成にいたるまで参加すること。具体的にどのような検索を行うかは、指導医に指示を仰ぐこと。
- 3) 病理学的検索で得た所見、その後行われた検索など、病理診断医が病理診断書に記載すべき事柄については、すべて学生用の病理診断報告書に記載すること。これは医師が実診療に使う電子カルテや病理部門システムとは別物であるが、病理診断医として実際に病理診断書を書いているつもりで、得られたすべての情報から取捨選択して必要な情報を正しい書式で記載すること。
- 4) カンファレンスでは既定の時間内で要約を発表できるよう割り当てた症例をまとめ、事前に準備しておくこと。
- 5) 病理診断科で研修を行う。
- 6) 病理解剖があれば、解剖室に入り必ず立ち会う。

広島市立広島市民病院

【病理診断科のスケジュール】

	行事、等	担当	場所	時間
定期	血内カンファ（毎週木曜） 婦人科カンファ（第三火曜） 脳外カンファ（第三金曜）	病理医全員	北棟3階 病理診断科	16:30 17:00- 16:30-
毎日	症例レビュー	病理医全員	北棟3階 病理診断科	16:00-17:00

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	50点
医師以外のスタッフによる学生の行動内容の評価	5点
主任部長による知識、行動評価	5点
カンファレンスでのプレゼンテーション	10点
学生用の病理報告書の内容	10点
病理領域の理解度	20点

【実習指導医】（R7,4月以後、変更の可能性あり）

市村 浩一	主任部長
山崎 理恵	部長
谷口 恒平	副部長